

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 26 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350316

研究課題名(和文) 教職志望学生による校内研究の支援を基盤とした循環型教育研究システムの構築

研究課題名(英文) sa

研究代表者

姫野 完治 (HIMENO, KANJI)

北海道大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30359559

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、教職志望学生が校内研究のデータ収集や分析等の支援を行うことを通して、校内研究を活性化する支援体制を整備し、かつ教職志望学生がベテラン教師の実践知をよい意味で盗み、自らの力量向上につなげていく循環型の教育研究システムを構築することである。このような目的のもと、3つの教職カリキュラムを開発し、その評価を行った。一つは、教職志望学生が授業研究の支援を行う授業研究論、二つは、情報教育に関する保護者向けのプレゼンテーションを行う情報教育実践論、三つは、恩師のライフヒストリー研究を主軸にした「教育工学演習」である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to establish the support system to activate Lesson Study through the teacher trainee student's doing data collection and analysis of Lesson Study, to construct educational research system to teacher trainee student acquire veteran teacher's practical knowledge. For that purpose, I developed and evaluated the following teacher training course.  
1) Lesson Study Research: The curriculum to which supported lesson study in primary school. 2) ICT Education: The curriculum to which give a presentation for guardians about information education. 3) Educational Technology Seminar: The curriculum to which made the former teachers' life history research.

研究分野：教育工学

キーワード：授業研究 教員養成 循環型教育研究システム Lesson Study 教職志望学生 現職研修

## 1. 研究開始当初の背景

学校が抱える教育課題が多様化する中、これまで教員間で受け継がれ、創られてきた教育や授業に関する実践知が、伝承・創造され難い現状がある。ベテラン教師の大量退職・若手教師の大量採用による年齢構成のアンバランス化、教育観・授業観の多様化の影響もあり、実践知の伝承と創造のシステム自体が衰退してきている。教員養成においては、即戦力として活躍できる学生を育てようと、様々な教育実践に関わる機会を設けているものの、表面的な経験の蓄積に終始し、ベテラン教師の実践知や技を継承するに至らない場合も少なくない。

生涯にわたり学び続ける教師を育むには、教員養成段階において単に経験を積むだけではなく、Teacher as Researcher として自らの実践を対象化し概念化するリサーチマインドを持ち、またベテラン教師の実践知をよい意味で盗み、自らの力量向上につなげていくことが重要である。そのためには、授業中の教師と子どものコミュニケーション、教師の意思決定や教授意図、子どもの学び等を見とり、かつ授業後の検討会で学校組織として学び深める過程を、学生自身が分析・研究する方法論を獲得することが鍵となる。ところが、教職志望学生が教材研究や授業研究を行う機会は、事前事後指導や教科指導法科目等があるものの、実際に校内研究の事後検討会や授業のデータを収集、分析する機会はほとんどないのが現状である。

ベテラン教師の知を若手教師へと継承することは、学校現場においても同様に課題となっている。教師の授業実践力の向上を始め、学校全体の教育力の向上に重要な役割を果たす校内授業研究は、国際授業研究学会(WALS: World Association of Lesson Study)が設立されるなど、世界中で多くの研究が蓄積されている(秋田ほか 2008)。一方、わが国の校内授業研究は形骸化し、意義が希薄になっていると見る向きもある(千々布 2005)。様々な課題を抱える学校において、教師の多忙化は深刻な状況であり、その場限りの発表会になってしまう場合も少なくない。事後検討会の談話分析(北田 2009、坂本・秋田 2012)や、アクション・リサーチに関する研究(横溝 2000、小柳 2004)が蓄積されているにも関わらず、実際の教育現場ではビデオ映像や逐語記録などのデータを用いた検討会を行う余裕がないのが現状である。教師の多忙化の解消とともに、校内授業研究を支援するバックアップ体制をいかに構築するかが問われている。

それと同時に、情報化が急激に進んだ現在、若手教師や教職志望学生が保持している経験と知恵の活用も急務である。小中学生の携

帯電話、スマートフォンの所持率が年々向上し、ネットいじめやゲーム依存など多くの課題を生み出している。これまで何とか対応してきた教師が、ここにきて情報化の流れについていけなくなり、被害者や加害者となる子どもも増え始めている。このような課題に対しては、ベテラン教師以上に、幼少期から情報化社会を生き、デジタルネイティブと呼ばれる若手教師や教職志望学生の方が長けている。ベテランから若手へとといった一方向ではなく、経験豊富なベテラン教師から教職志望学生にいたる各々が持つ強みを生かす教師教育のあり方が求められている。

## 2. 研究の目的

学び続ける教師を育む一つの鍵として校内研究が重視されているが、教育現場は多様な職務に追われ校内研究がルーチン化、儀式化されてしまう場合も少なくない。一方、これから教壇に立つ教職志望学生は、ボランティア等に参加し経験豊富になってきている反面、現場への慣れに終始し、自らの実践を対象化し概念化するリサーチマインドを高める方法論は獲得できていない。本研究では、教職志望学生が校内研究のデータ収集や分析等の支援を行うことを通して、校内研究を活性化する支援体制を整備し、かつ教職志望学生がベテラン教師の実践知をよい意味で盗み、自らの力量向上につなげていく循環型の教育研究システムを構築することを目的とする。

## 3. 研究の方法

具体的には、「授業研究論」、「情報教育実践論」、「教育工学演習」といった各授業科目の趣旨に合わせて、校内研究の支援や聞き取り調査を行うプログラムを開発し、その実践と評価を行う。

## 4. 研究成果

(1)教職志望学生による授業及び事後検討会の分析と現職教師へのフィードバック

「授業研究論」という専門科目は、発達科学選修の学生を対象とした選択科目であり、学校教育における中核の一つである授業に焦点をあて、さまざまな授業実践や授業研究方法を理解することをねらいとしている。ここでは、授業を研究するための量的、質的研究方法を探索したり、事後検討会の談話分析などについて検討したりしている。

その一環として、秋田市内で行われている校内授業研究および事後検討会に参加し、ビデオ撮影を行うとともに、事後にそれらの逐語記録を作成し、また量的・質的に分析する活動を行った。分析方法は、授業中に取り上げた方法を活用したり、各学生の興味に合わせた方法で分析することになっている。全ての発言を文字化して、カテゴリーに当てはめた量的分析を行う学生もいれば、一人の子ども

をつぶさに観察し、目線やノートがどのように移り変わったのかを分析する学生もいる。学生たちが作成した分析結果の一部を図1、図2に示す。

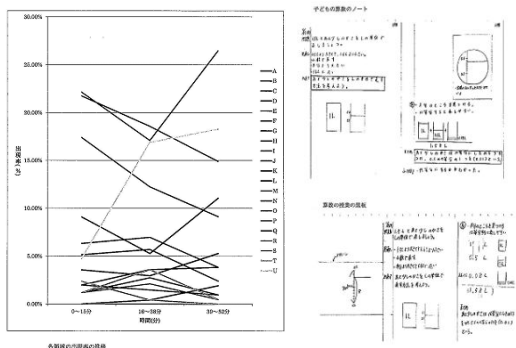


図1 学生による授業分析の一部

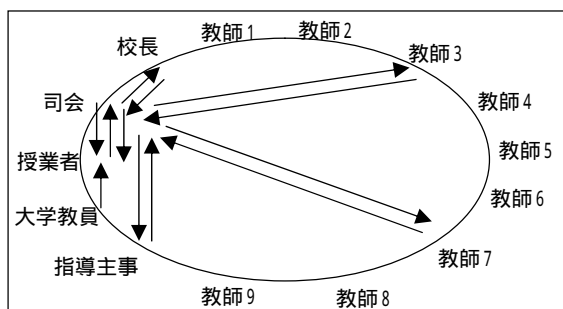


図2 事後検討会の談話傾向

## (2) 情報教育・教育の情報化に関する教材開発

教職必修科目「情報教育実践論」は、情報教育のねらいを理解し、学校において体系的な情報教育実践を推進する方法論を身につけること、とりわけメディアリテラシーや情報モラルを育む授業の設計・実施・評価・再設計に必要な知識やスキルを習得することを目指している。

情報化に伴う利点を生かしつつも、表出している様々な課題に対して学生ならではの視点で対応策を考える機会を盛り込むよう授業内容を構成し、情報化社会の子どもたちの現状を探索したり、賢く生き抜く子どもを育てるための方策を考える機会を設けている。また、文部科学省が実施している学力・学習状況調査のうち、児童調査の都道府県別結果を比較したり、子どもや保護者の情報リテラシーを調査するための質問紙を作成するといった内容を組み込み、Teacher as Researcher としての学び方を学ぶ契機となるよう心がけている。

この授業の一環として、保護者向けに「子どもと情報化の現在」というプレゼンテーションを作成する課題を課した。学生たちが作成したプレゼンテーションを、許諾を得た上で附属学校園の教員グループとの共同研究会で閲覧した。学生たちのプレゼンテーションを生かしながら、各学校において情報モラル教育の方法を検討している。

## (3) 恩師のライフヒストリー研究

教師という仕事は、教員養成を礎として、多様な人生経験と教職経験を積み重ねることによって、よりよい教師へと続く終わりなき旅だと言われる。たった一つの順調な成長のプロセスが存在し、誰もが同じプロセスをたどるわけではない。

しかし、昨今の教員養成や教員研修を見渡すと、授業科目の必修化や研修の義務化が進み、教師の学びが狭い範囲に規定されつつある。制度化することが主眼におかれ、「決められた研修を受けること=教師の学び」と非常に狭く捉えられているきらいがある。教師のレジリエンスが重視される昨今だからこそ、それぞれの教師のライフヒストリー、教師としての成長・発達過程に触れる機会が求められる。そこで、「教育工学演習」という専門科目の一部として、教職志望学生が自らの被教育体験で関わった恩師にインタビューを行い、そのライフヒストリーをまとめる取り組みを行った。

授業初回と最終回に描いてもらった「教師の成長・発達に対するイメージ」曲線の比較およびインタビューから、学生の教師発達イメージが直線的から曲線的なイメージへと変容すること、停滞期の位置付け方に変化が生じること等がわかった。また、ライフヒストリー研究を教員養成に取り入れる上での成果と課題を示した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

姫野完治、大野栄三、近藤健一郎、研究志向の大学院における教員養成の取り組み - 大学院共通授業科目「学校フィールドワーク実践研究」の試行と評価、北海道大学大学院教育学研究院教職課程年報、第6号、査読無、2016、1-10

姫野完治、恩師のライフヒストリー研究を主軸にした教職科目の開発、日本教育工学会論文誌、39(Suppl)、査読有、2016、9-12

姫野完治、益子典文、教師の経験学習を構成する要因のモデル化、日本教育工学会論文誌、39(3)、査読有、2015、139-152

姫野完治、大野栄三、近藤健一郎、研究志向の大学における教職課程の現状と学生の意識に関する基礎研究 北海道大学の事例を通して、北海道大学大学院教育学研究院教職課程年報、査読無、2015、1-10

姫野完治、学校現場に関わる循環型教育研究の試み、SYNAPSE、第9号、査読無、2014、16-19

姫野完治、黒木健、斎藤沙夜花、關友明、高校教師の力量形成と研修のあり方に関する基礎的研究、秋田大学教育学部教育実践研究紀要、第36号、査読無、2014、205-215

〔学会発表〕(計8件)

姫野完治、実践知の深さと伝承の工夫、日本教師学学会 第17回大会、2016年3月6日、奈良学園大学(奈良県、三郷町)

姫野完治、教師の生涯発達における教育実習の役割と現状、日本教育心理学会 第57回大会、2015年8月27日、新潟朱鷺メッセ(新潟県、新潟市)

姫野完治、[ワークショップ]教師を目指す学生を巻き込んだ循環型教育研究の試み、日本教育工学会 第30回大会、2014年9月19日、岐阜大学(岐阜県、岐阜市)

姫野完治、[トークセッション]教師教育・実践研究、日本教育工学会 第30回大会、2014年9月19日、岐阜大学(岐阜県、岐阜市)

姫野完治、益子典文、学び続ける教師の学びの特質に関する事例研究、日本教育工学会 第30回大会、2014年9月19日、岐阜大学(岐阜県、岐阜市)

戸田緑・姫野完治、小学校教師の学級経営力に関する一考察、日本教師学学会 第15回大会、2014年3月8日、環太平洋大学(岡山県、岡山市)

姫野完治、教師の能力をいかに捉え育むか、日本教師学学会 第15回大会、2014年3月9日、環太平洋大学(岡山県、岡山市)

姫野完治、教職志望学生の成長観の変容とライフヒストリー、日本教育方法学会 第49回大会、2013年10月6日、埼玉大学(埼玉県、さいたま市)

〔図書〕(計3件)

生田孝至、三橋功一、姫野完治、未来を拓く教師のわざ、一莖書房、2016、232

梅澤実、姫野完治 他、教職実践演習 これまでの学びと教師へのあゆみ、わかば社、2014、157

今西幸蔵、姫野完治 他、教職に関する基礎知識、八千代出版、2013、199

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

姫野 完治 (HIMENO KANJI)

北海道大学・大学院教育学研究院・准教授  
研究者番号：30359559

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者